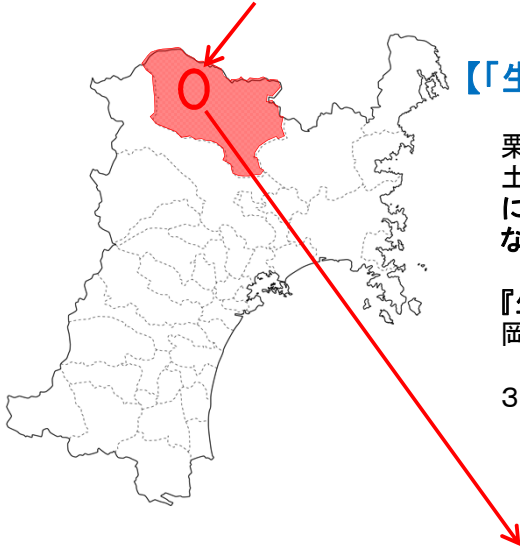


「土石流災害現場における自然林再生の試み」

～栗原市栗駒耕英東地区の自然林の再生を目指して～

北部土木事務所栗原地域事務所
防災砂防課

栗原市栗駒耕英東地区



【「生態学的混播・混植法」に関する講習会】

平成20年6月14日に発生した「岩手・宮城内陸地震」において、栗原市栗駒耕英東地区では、大規模な土砂災害が発生しました。そのため、県では、土砂災害対策(砂防激甚災害対策特別緊急事業)を行うとともに、土砂災害により失われた森林の再生、裸地の保護、砂防緩衝帯の形成、景観保護などを目的とした植樹を実施しました。

県砂防協会との共催で、自然林再生手法として多数の実績のある『生態学的混播・混植法』について、開発者である、北海道工業大学の岡村俊邦教授らを講師に招き、講習の後、現地実演(種播き、植樹)も行いました。

当日は、県・市町の職員を始め、砂防ボランティア協会のメンバーなど、合計39名の参加があり、台風一過の好天の下で行われました。

「植樹箇所(砂防激特事業施工箇所)航空写真」



『生態学的混播・混植法』とは？

できるだけ手を掛けず、自然にまかせて、かつてその場所にあったような自然林を作るという植樹法です。

(特徴)

- ・小苗を使用するため作業が容易
- ・植栽後の維持管理が不要
- ・費用をかけないで「自然の森」ができる。

【講習会概要】

- 実施日時 平成25年10月10日(木)
- 場所 栗原合同庁舎第一会議室
栗原市栗駒耕英東地区
- 参加者 県・市町職員
宮城県砂防ボランティア協会員ら合計39名
- 講師 北海道工業大学大学院工学研究科教授
岡村 俊邦 氏
(独)寒地土木研究所特別研究監
吉井 厚志 氏



「岡村氏の指導例(札幌市藤野東公園)」

【講義状況】

(演題)

「生態学的混播・混植法の成り立ちと活用事例」
(吉井氏)

「生態学的混播・混植法の実際について」
(岡村氏)



「講義風景(岡村氏の講義)」

【種播き実習】

植栽に使う苗木を作るため、種播きの実習も行いました。

発砲スチロールの箱に、鹿沼土を入れて表面に種を播き、その上に薄く碎石(5-20mm)を敷くだけです。



「種播き実習(中央で実演する岡村氏)」

【植樹状況と植えた苗】

半径3mのユニット毎に碎石(単粒20mm)を敷き均し、数種類の苗木を組み合わせ、1ユニットに10本ずつ植えました。これで完了です。(あとの手入れは要りません。)



「参加者による植樹実習」

種を播いて数年育てた苗木(ミズナラ、カエデ、ヤマハンノキ等)を約30種類用意しました。



「実際に植樹した苗」

【ボランティア等による植樹状況】

栗駒耕英東地区の自然林再生の試みについては、「生態学的混播・混植法」による植樹の他、隣接の箇所において各種ボランティア等による植樹会も実施されております。

平成25年10月23日(水)には、宮城県砂防ボランティア協会、宮城県土木部退職者の会、宮城県道路ボランティア協会、くりこま絆の森植樹プロジェクトチームの共催による植樹会が開催されました。

植樹会は、あいにく小雨が降り続く天候となりましたが、約80名の方が参加し400本の植樹を実施しました。



「植樹箇所のエリア分け」



「宮城県砂防ボランティア協会 堀会長挨拶」



「くりこま絆の森植樹プロジェクトチーム 菅原代表挨拶」



「植樹の状況」

【終わりに】

今後も、当地区を中心に「生態学的混播・混植法」により植樹を続けていく予定にしています。また、ボランティア等の皆様方による植樹についても継続して実施していきたいと考えております。そして、20年後、30年後にこの地の森が再生されていることを期待しています。今回の講習会の「生態学的混播・混植法」は、だれもが気軽にできる「自然林」の再生手法です。皆さんも一度試してみませんか。